

「お金」を面白いほど引き寄せる黄金ルール

33. 成功者は“入手の原則”を実行している！

世の中でただで手に入るものはありません。受け取るためには与えなければなりません。

物でもお金でも、それを手にすることができるのは、「入手の原則」に従った場合だけです。入手の原則とは「ただで物を得ようとしてはいけない」「受け取るためには与える」ということです。何もしないでただで手に入れようとすると、後で必ず代償を支払わねばなりません。そしてその場合に払うことになる代償は、得たものと比べて大きな犠牲を伴うものになりがちです。

「刑務所は、ただで手に入れようとした人たちでいっぱいです」とマーフィー博士は言います。

では「受け取るためには与える」とはどういうことでしょうか。何を誰に与えればいいのか。そのことを説明する前に、常識とはかけ離れたマーフィー博士のユニークな労働観を披露しておきましょう。

日本人の伝統的な労働観では「勤勉」「努力」が大きく評価されます。しかし、マーフィー博士の考え方はそれと大きく違っています。

「金持ちになれる唯一の方法は、額に汗して激しく働くことなどという話を信じてはいけません。真実はそうではないのです。努力しないやり方が一番よい。ただし、その仕事が楽しくてたまらないからするというようでありなさい」

このことを知った上で「受け取るためには与える」を考えると、与える対象は意外なことに潜在意識であり、与えるのと受け取るのは顕在意識ということです。

その根拠は博士があげた次の例からも明らかです。資金繰りに苦慮しているつぶれそうな会社の社長に、博士は次のようなアドバイスをしたのです。会社に戻ったら、静かに椅子に腰を下ろして「売り上げは毎日よくなっていく」という言葉を何度も繰り返しなさい……。

すると、本当にそのようなことが起こったのです。常識的にはにわかに信じられないことですが、博士はその理由を次のように説明しています。「意識する心（顕在意識）と潜在意識をよい方向へ協力させたのです。今までその社長は悪いほうへ協力させていたのです」。これが入手の原則の「受け取るためには与える」ということです。